### 四国災害アーカイブス



一般社団法人 四国クリエイト協会

#### はじめに

四国災害アーカイブスは、過去に四国各地で発生した災害に関する情報を収集、整理し、地域防災力の向上のためにできるだけ多くの人々に活用してもらえるようインターネットを通じて情報を提供するものです。平成24年7月に部分的運用として地震・津波の情報提供を開始し、平成25年7月からは第二弾として土砂災害、渇水の情報を追加、平成26年7月よりすべての災害種類の情報を提供する本格的な運用を行っています。

「アーカイブスあらかると」は、皆さまに少しでも四国 災害アーカイブスへの関心を持っていただくために、平成 24年7月以来、毎月、四国災害アーカイブスのWEBサイトに掲載してきたコラムです。この冊子には平成30年 度分Vol.70~81(2018年4月~2019年3月)のコラムを 編集して収録しています。

この冊子が多くの人に活用され、四国災害アーカイブス が四国の地域防災力の向上に少しでも役立つことを願っ ています。

平成 31 年 4 月

一般社団法人 四国クリエイト協会 理事長 工藤 建夫

## 目 次

➡Vol. 70(2018 年 4 月)教訓を生かす・・・・・・・・・・・ 1
・鞆浦の慶長宝永碑(徳島県海陽町)
• 宝永津浪溺死之塚(高知県須崎市)
■Vol.71 (2018 年 5 月) <mark>偉い人はあちらこちらに・・・・5                                 </mark>
・石手川を改修した大川文蔵(愛媛県松山市)
➡Vol.72 (2018 年 6 月) ダムのおかげ・・・・・・・ 9
・長柄ダム(香川県綾川町)
・石手川ダム(愛媛県松山市)
┗Vol. 73(2018 年 7 月)水害······ 13
・昭和 50 年の仁淀川水害(高知県土佐市)
・昭和 62 年の新川水害(香川県三木町及び高松市)
<mark></mark> Vol. 74 (2018 年 8 月) <mark>降雨を祈る・・・・・・・・・</mark> 17
• 城山神社(香川県坂出市)
• 阿沼美神社、伊佐爾波神社(愛媛県松山市)
■Vol. 75(2018 年 9 月)台風時の殉職・・・・・・・ 21
・第二室戸台風時の水防団員の殉職(徳島県阿波市)
<ul><li>伊勢湾台風時の県職員の殉職(高知県安芸市)</li></ul>

➡Vol. 76 (2018 年 10 月) 土石流による犠牲····· 25
・昭和 51 年台風 17 号による土石流 (徳島県那賀町)
・平成 16 年台風 15 号による土石流(香川県観音寺市)
➡Vol. 77(2018 年 11 月)堤防決壊······ 29
・勝浦川堤防の決壊(徳島県小松島市)
・禎瑞海岸堤防の決壊(愛媛県西条市)
┗Vol.78 (2018年12月) 山に逃げる・・・・・・・・・・・ 33
・宍喰の愛宕山(徳島県海陽町)
・夜須の観音山(高知県香南市)
┗Vol. 79(2019 年 1 月)温泉と神輿・・・・・・・37
・道後温泉の湯が止まった(愛媛県松山市)
・須崎八幡宮の神輿が流された(高知県須崎市)
■Vol. 80(2019 年 2 月)地すべり・・・・・・・・41
・善徳地すべり(徳島県三好市)
・長者地すべり(高知県仁淀川町)
■Vol.81 (2019年3月)河川改修に力を尽くす・・・・ 45
・鴨部川と竹内熊太郎(香川県さぬき市)
・関川と合田福太郎(愛媛県四国中央市)
■四国災害アーカイブスの概要・・・・・・・・49

## Vol.70(2018 年 4 月) 教訓を生かす①

### 教訓を生かす

災害時の教訓を生かしてほしいという先人の思いが石碑に刻まれています。その思いは、説明板や由来書があれば、今を生きる人にも分かりやすくなります。徳島県海陽町と高知県須崎市の地震津波の例をご紹介します。

#### ■鞆浦の慶長宝永碑(徳島県海陽町)

徳島県海陽町の鞆浦には高さ3m、幅5mほどの大岩があり、そこに慶長地震と宝永地震の時の津波の様子が刻まれています。慶長の碑文には、慶長9年(1604)12月16日亥の刻(午後10時)に大海三度鳴り、その後高さ10丈(30m)の津波が7度来襲し、男女100余人が海に沈んだことなどが記されています。また、宝永の碑文には、宝永4年(1707)10月4日未時(午後2時)に地震が起こり、1丈(3m)余りの津波が三度押し寄せたものの、一人の死者も出なかったが、地震後にあらかじめ津波が来ることを考えていれば避けることができるなどと記されています。津波の高さや発生時間など状況は違いますが、慶長の津波被害の教訓が生かされて、宝永の時には津波被害が軽減されたものと推察されます。〈海部町史編集部編「海部町史」1971年など〉







## Vol.70(2018 年 4 月)教訓を生かす②

#### ■宝永津浪溺死之塚(高知県須崎市)

高知県須崎市に宝永津浪溺死之塚が建立されています。 宝永4年(1707)10月4日、地震後に津波が襲来した時、 人々は地震後に津波が来ることや避難の方法を知らなかったため、400余人が溺死するという惨事が起こりました。 それから147年後の安政元年(1854)の地震で須崎はまた 津波に襲われました。この時には人々は語り継がれてきた 宝永の教訓を守ったため、犠牲者は少なくてすみました。 それでも、間違った言い伝えを信じて、船に乗って沖に出 ようとした30余人が溺死しました。安政3年に墓を改葬 する機会に、宝永・安政の津波の教訓を塚に刻み、後世に 残すことにより、再び津波による被害が起こることがない ように願ったことなどが碑に記されています。<「宝永津 浪溺死之塚由来碑」の碑文など>







## Vol.71 (2018.5.20) 偉い人はあちらこちらに①

### 偉い人はあちらこちらに

あまり広く知られていないものの、偉い人はあちらこちらにいます。そういう人に光が当たってほしいものです。 香川県高松市の前田与三兵衛と愛媛県松山市の大川文蔵をご紹介します。

#### ■奈良須池を築いた前田与三兵衛(香川県高松市)

奈良須池の辺りは干ばつに悩まされ、古くからたびたび 大池の築造が計画されましたが、そのつど困難に遭って完 成することができず、古地図には「ならず(不成)」と記 されてきた土地柄でした。正保2年(1645)、承応3年(1654) に続いて、寛文8年(1668)の干ばつによる惨状を見て、 山崎村の御蔵奉行前田与三兵衛は衝撃を受け、農民を守る ために従来の4つの小池を統合して大池を築き、香東川か ら導水する計画を立てました。与三兵衛と農民の苦役と奉 仕により奈良須池は寛文10年に完成し、小池に頼ってい た岡本・川部・山崎・円座・中間・檀紙・飯田七か村の水 量は倍加し、下流の中間・檀紙・飯田村では新田も開かれ ました。<讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池 誌」2000年>





## Vol.71 (2018.5.20) 偉い人はあちらこちらに②

### ■石手川を改修した大川文蔵(愛媛県松山市)

慶長年間 (1596~1615) に足立重信により河道改修が行 われた後、石手川ではたびたび洪水被害が繰り返されまし た。享保6年(1721) 閏7月の洪水で堤防決壊により甚大 な被害が出たのに続いて、翌享保7年6月の洪水でも田畑 の被害 3,263 町、家屋の流失・倒潰 1,478 軒、死者 88 人 等の被害が出ました。藩主松平定英は一時しのぎの川さら えや堤防修理では根本的な解決にならないと考え、大川文 蔵を抜擢して改修工事を命じました。大川文蔵は、石手川 の状態を観察し、流路を固定し堤防を守るために「曲出し」 工法を考え出しました。改修工事は享保8年から享保14 年にかけて行われ、その後約100年の間、石手川の洪水被 害は記録されなくなりました。現在、石手川緑地に川にほ ぼ直角に突き出た高さ2mほどの丘がありますが、これが 曲出しの跡です。<松山市史編集委員会編「松山市史第2 巻 1993 年及び郷編集委員会編「たちばなの郷」2003 年 など>





## Vol.72 (2018.6.20) ダムのおかげ①

### ダムのおかげ

普段の生活ではダムのことはあまり気にしないかも知れません。しかし、洪水や干ばつに対応するために先人がダムを築いてくれたおかげで、私たちの生活は成り立っています。香川県綾川町の長柄ダムと愛媛県松山市の石手川ダムの例をご紹介します。

### ■長柄ダム (香川県綾川町)

綾川沿いの地域は香川県でも最も雨量の少ない所とされ、大正元年、7年、13年、昭和9年と続いた洪水・干ばつを契機に、上流の綾上町(現綾川町)で長柄ダムを築造することが発起されました。昭和10年に用水改良事業のかんがい用堰堤として出発しましたが、昭和14年の大干ばつが契機となって、昭和16年に香川県により長柄ダムの建設が長柄池用水改良並びに洪水調節事業として着工されました。戦争により昭和19年に中止されましたが、昭和24年に再開され、昭和28年に完成しました。20年後の昭和48年には高松砂漠と言われるほどの大干ばつがありましたが、綾上町では長柄ダムの水源によって救われたと記録されています。<綾上町教育委員会編「綾上町誌」2005年及び香川県建設技術協会編「香川県土木史」1976年など>





## Vol.72 (2018.6.20) ダムのおかげ②

#### ■石手川ダム (愛媛県松山市)

松山市の中心部を貫流する石手川では、昭和18年と20年の洪水により大きな被害を受けたため直轄改修工事が行われましたが、抜本的な対策を検討した結果、河道で処理するよりも、ダムによる洪水調節の方が得策ということになりました。また、昭和42年の干ばつで天水に頼っていたみかん栽培が甚大な被害を受けたことに加えて、松山市では人口増と需要増に対処するために新たな水源の確保が急務となっていました。このため、洪水調節、かんがい、上水道の用水補給を目的として石手川ダムの建設事業が昭和41年度に着手され、昭和48年3月に完成しました。ダム展望台のパネルには、ダム建設工事では徹底した安全管理により224万時間無事故無災害(延べ労働時間)という記録を確立したと記されています。<建設省松山工事事務所編「松山工事四十年史」1985年など>





## Vol.73 (2018.7.20) 水害①

### 水害

台風などにより豪雨となり、水害に見舞われることがあります。そのたびに、人々は置かれた条件の中で水害が再び起きないように、被害が軽減されるように努力してきました。高知県土佐市の仁淀川水害と香川県三木町及び高松市の新川水害の例をご紹介します。

#### ■昭和50年の仁淀川水害(高知県土佐市)

昭和50年(1975)8月17日、宿毛市付近に上陸した台風5号は、仁淀川中流域に集中豪雨をもたらしました。鳴川・天崎・末光の山崩れ、用石堤防の決壊、用石・高岡市街地・家俊の浸水などにより、土佐市では死者6人、負傷者74人、家屋全壊26戸、家屋半壊72戸、床上浸水2,255戸などの被害が出ました。仁淀川の洪水により、高岡堤防は各所で決壊の危機に瀕しましたが、地元の人々などの懸命の水防活動により決壊を免れました。ここは土佐市街地の防災上最重要地先であるため、市民から高岡堤防の早期の拡幅強化が要望され、改修工事は昭和50年12月の着工から1年余で完成しました。堤防には高岡堤防竣工記念碑が建立されています。(土佐市史編集委員会編「土佐市史」1978年及び建設省四国地方建設局高知工事事務所編「流域史蹟ガイド仁淀川・物部川・高知」1988年など>





# Vol.73(2018.7.20)**水害**②

#### ■昭和62年の新川水害(香川県三木町及び高松市)

昭和62年(1987)10月16日~17日の台風19号により、新川及びその支流吉田川流域では24時間最大雨量475ミリを記録し、三木町及び高松市で約870haが浸水し、浸水家屋が4,216戸に上りました。新川では昭和38年度から中小河川事業として改修が行われてきましたが、この災害を契機に香川県では昭和62年12月に河川激甚災害対策特別事業の採択を受け着工しました。新川河川激特事業は、本川9.0kmと支川吉田川1.6kmを合わせた総延長約10.6kmの区間に対し、築堤、護岸、潮止堰等の工事を行い、平成6年3月に完了しました。新川河口に新川河川激特事業竣工記念碑が建立されています。<香川県高松土木事務所新川改修事業所編「新川河川激特事業工事誌(昭和62年10月台風)」1994年及び三木町史編集委員会編「三木町史現代史編」2004年など>





## Vol.74 (2018.8.20) 降雨を祈る①

### 降雨を祈る

干ばつになると、昔から各地で降雨のための祈願が行われてきました。資力や技術が足りない時には、祈りに救いを求めるしかなかったのかも知れません。香川県坂出市の城山神社と愛媛県松山市の阿沼美神社・伊佐爾波神社の例をご紹介します。

#### ■城山(きやま)神社(香川県坂出市)

仁和3年(887)の干ばつに続き、翌4年も雨が少なく、田植えができずに困っていました。讃岐の国司菅原道真は城山神社に立て籠もり、七日七夜の断食で雨乞いの祈願をしたところ、満願の日になって雷鳴とともに雨が降り出し、三日三晩にわたって降り続いたと言い伝えられています。昭和14年(1939)も、7月~8月の降雨量は極端に少なく干ばつとなりました。藤岡長敏県知事は7月23日に道真公を祀る滝宮八幡宮で雨乞い祈願をし、さらに8月1日には故事にならい城山神社に参拝して降雨を祈りました。待望の雨は9月9日に降ったものの、被害は甚大でした。この干ばつを契機に、香川県は満濃池の増築、長柄ダム・内場ダムの建設などに取りかかることになりました。<飯山町誌編さん委員会編「飯山町誌」1988年及び讃岐のため池誌編さん委員会編「讃岐のため池誌」2000年>







## Vol. 74(2018.8.20)<mark>降雨を祈る②</mark>

### ■阿沼美(あぬみ)神社、伊佐爾波(いさにわ)神社 (愛媛県松山市)

享保9年(1724)5月、6月は日照りのため、道前五郡のうち200町余りで植え付けができず、味酒明神(阿沼美神社)と道後八幡(伊佐爾波神社)に二度の雨乞い祈祷が命じられました。道後八幡へは諸郡より女子が出て、味酒明神には町中の女子が出て、7日間踊りました。折々降雨がありましたが、前年の冬以来雨が少なく、田掛かり水が少ないため、各地の寺社で雨乞い祈祷が行われました(御先祖由来記による)。松山藩では、この享保9年の干ばつに加えて、享保7年(1722)の洪水、享保14年(1729)の暴風雨と災害が連続し、農民の生活に余裕がなくなったことも背景となり、藩内で餓死者3,489人(垂憲録拾遺の数値)を出した享保17年(1732)の飢饉へとつながっていくことになります。<神原健編「愛媛県気象史料」1952年及び松山市史編集委員会編「松山市史第2巻」1993年>







### 台風時の殉職

台風時には、水防団員、消防署員、警察官、行政関係者などが献身的に活動します。その職務活動中に殉職者が出ることがあります。徳島県阿波市と高知県安芸市の例をご紹介します。

#### ■第二室戸台風時の水防団員の殉職(徳島県阿波市)

昭和36年(1961)9月15日から16日にかけて、第二 室戸台風は徳島県土成町(現阿波市)に480ミリを越える 雨量をもたらしました。九頭字谷川(くずうだにがわ)の 翫城地(がんじょうじ)橋地点では水位が 2.4mと警戒水 位を大きく突破し、橋上流数か所の堤防は決壊寸前の危機 に瀕しました。このため、水防管理者(町長)の出動命令 のもと全町あげて出動し、九頭宇谷川の両岸に土のう500 俵を積み、木流し作業(しぶしという)を実施して堤防決 壊を予防しました。懸命の水防活動により堤防は守られま したが、50mの風速と間断ない豪雨のため水勢が増し、木 流しの鉄線が切れて流出し、代わりの木流しを投入しよう とした分団員がその鉄線にからまり濁流にのまれて殉職 するという出来事が起きました。これを機に九頭宇谷川の 完全改修に関する要望が高まりました。翫城地橋のたもと にお地蔵様が安置されています。<十成町史編纂委員会編 「十成町史上巻」1975年>







## Vol.75(2018.9.20)台風時の殉職②

### ■伊勢湾台風時の県職員の殉職(高知県安芸市)

昭和34年(1959)9月26日、伊勢湾台風により、高知県下では死者4人、負傷者78人、家屋の全壊66棟、半壊65棟、田の流失33ha、冠水68ha、道路損壊36箇所などの被害が出ました。死者のうち1人は高知県安芸土木出張所の若手職員で、26日午後3時半頃、安芸市伊尾木の大山岬の国道55号脇で大岩上に立ち、災害状況調査の写真撮影中に高波にさらわれて殉職しました。同行の上司2人も約20m離れた道路上に押し流され1人が重傷を負い、近くに停車していたジープも波にたたかれ破損し運転手も負傷しました。大山岬の現場には伊勢湾台風遭難碑が、高知県安芸総合庁舎前には殉職之碑が建立されています。<高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998年>









### 土石流による犠牲

台風などによる局地的な豪雨のため、土石流が発生して 犠牲者が出ることがあります。土石流は山腹や川底の土砂 と水が一体となって渓流や斜面を流下する現象で、山津波 ともいいます。徳島県那賀町と香川県観音寺市の例をご紹 介します。

#### ■昭和51年台風17号による土石流(徳島県那賀町)

昭和51年(1976)の台風17号では、台風の動きが遅かったことも要因となり、木頭村(現那賀町)の北川で9月8日から13日までの降雨量が2,500ミリを超える驚異的な降雨を記録しました。村内では那賀川の増水により床上浸水が発生したり、崩壊により国道195号が不通となるなど災害が多発しました。台風が去った直後の13日午後1時半頃には、突如西ノ谷山が崩壊し、膨大な土石流により平地区の3分の2が土砂の海と化しました。この土石流により、平地区では建設作業員宿舎1棟が流されるなどして、6人が生き埋めとなり、懸命の捜索活動により4日後までに全員の遺体が収容されました。昭和52年9月に犠牲者の一周忌が執り行われ、慰霊碑が建立されました。<木頭村誌編纂委員会編「木頭村誌続編」2006年及び平地区の慰霊碑の碑文など>





## Vol. 76(2018.10.20)土石流による犠牲②

### ■平成 16 年台風 15 号による土石流 (香川県観音寺市)

平成 16 年 (2004) 8 月 17 日、台風 15 号の接近により 局地的豪雨に見舞われ、大野原町 (現観音寺市) 五郷地区では午後 2 時~3 時の時間雨量が 54 ミリ、降り始めから 18 日午後 6 時までの雨量が 281 ミリを記録しました。この豪雨で、17 日夕方、五郷有木落合地区で、氾濫した前田川の濁流が落合自治会館に流れ込み、自主避難していた女性 2 人が犠牲となりました。県西讃土木事務所によると、前田川の氾濫は、川の東側 2 箇所で土砂崩れが発生し、2,000 ㎡以上の土石流で生じた大量の土砂や倒木が川に流入したことで、短時間に急激に増水したためと推定されるということです。 平成 20 年 3 月に落合地区災害復旧砂防事業竣功碑が建立されました。 <新修大野原町誌編さん委員会編「新修大野原町誌」 2005 年及び香川県土木部河川砂防課編「平成 16 年土砂災害復興の記録」 2009 年)など>







# Vol.77(2018.11.20) <mark>堤防決壊①</mark>

### 堤防決壊

堤防は、人々が暮らす地域に河川や海の水が浸水しないように防護する役割を果たしています。しかし、いったん堤防が決壊すると大きな被害をもたらします。徳島県小松島市と愛媛県西条市の例をご紹介します。

#### ■勝浦川堤防の決壊(徳島県小松島市)

明治32年(1899)9月8日の台風により、勝浦川では上流の高鉾村(現上勝町)正木で山が崩壊し、下流では7月の決壊で仮止堤防となっていた江田村(現小松島市)の堤防を濁流が襲い、さらに上流部の前原村(現小松島市)にかけて160mに及ぶ堤防決壊が起こりました。旧分流の菖蒲田川が本流と化し、神代橋は崩壊し、小松島町は約1ヶ月間濁水の中に置かれ、死者2人、流出家屋18戸の被害が発生しました。また、金磯新田では護岸堤防が破壊され、海水が全村に浸水し、被害は倒壊家屋5戸、田畑の埋没50ha余、荒廃田580ha余に及びました。10月から翌年6月にかけて900m余の修堤が行われ、それ以後、勝浦川の大規模氾濫はなくなりました。小松島市前原町の勝浦川堤防上に「修堤碑」が建立されています。<小松島市史編纂委員会編「小松島市史中巻」1981年>







## Vol.77(2018.11.20) <mark>堤防決壊②</mark>

#### ■禎瑞海岸堤防の決壊(愛媛県西条市)

明治26年(1893)10月、大暴風雨の襲来により各所の 堤防が決壊しました。禎瑞海岸でも龍神社の西方が94間 (約170m)にわたって崩れ、浸入した海水は住宅の軒を 没し、耕地が水底に没すること90日間に及びました。堤 防の切れ口に石を積んだ大きな帆船4隻を沈め、数千人の 人夫が動員されて復旧工事が行われました。決壊した位置 に建てられた記念碑には、当時の惨状が詳細に記されてい ます。その碑文の中に「いかなる高潮波荒れにも心安く思 ひ居たるに、図らずもこの災ひに罹れり、今より後も、天 災是はかりかたければ、努め忽かせにすべからず」という 句があり、災害に備えることの大切さを後世に伝えていま す。<久門範政編「西條市誌」1966年>







# Vol.78 (2018.12.20) 山に逃げる①

## 山に逃げる

嘉永7年(1854) 11月4日と5日に地震が起こり、5 日の地震後の津波により甚大な被害が発生しました。地震 後は津波に備えてできるだけ早く山に逃げること、逃げた 後むやみに家財を取りに家に戻らないことを、徳島県海陽 町と高知県香南市の例は伝えています。

### ■宍喰の愛宕山(徳島県海陽町)

安政南海地震津波が宍喰(現海陽町)を襲った時の状況は、田井久左衛門宣辰の「震潮記」に克明に書き残されています。要旨は以下のとおりです。11月5日申の下刻(午後4時頃)に極大の地震が起こり、地面が裂け渡り泥水を吹き上げ、家々の軒は落ち、瓦は飛び、壁は落ち、家は潰れました。人々は老人、病人、幼い者などを助け、揺られながら近い山々に逃げ登りました。愛宕山に逃げ登ったのは572人でした。たちまち逆波が三度来ました。浜辺に居合わせて船に乗った人は、逆波に打ち返されて溺死しました。このような場合には決して船に乗ってはならない、できるだけ早く近くの山に逃げ登ることが肝要で、逃げ遅れた人は命をなくす、と記されています。〈田井晴代訳「震潮記」2006年、宍喰町教育委員会編「宍喰町誌 上巻」1986年、中島源著「宍喰風土記」1969年など〉







## Vol.78(2018.12.20)山に逃げる②

#### ■夜須の観音山(高知県香南市)

夜須町(現香南市)の観音山には安政南海地震津波の記念碑が建っています。「奉納延命十句観音経一百万遍也為万民安全長久」で始まる碑文には、地震・津波の状況、その時の人々の様子、教訓が記されています。11月5日夕七ツ時(午後4時頃)に大地震があり、日入頃に一番波が来て、人々は食物、衣類を持って観音山に持ち運び、数百人が助かりました。観音山は「命の山」です。その後、二番波が来て、さらに五ツ時(午後8時頃)には三番波が来て、一度に家、蔵を流失させ、跡は白浜となり、目も当てられないようになりました。宝物を家に残すも再び我が家に帰るべからず、これ肝要なり、と記されています。<観音山の記念碑、夜須町史編纂委員会編「夜須町史上巻」1984年、橋詰延寿著「夜須町風土記」1969年>







# Vol.79(2019.1.20) 温泉と神輿①

## 温泉と神輿

宝永4年(1707) 10月4日、東海道沖から南海道沖を 震源として巨大地震が発生しました。宝永地震は歴史上南 海トラフで発生した最大規模の地震と言われています。こ の地震の後に何が起こったのか、愛媛県松山市と高知県須 崎市の例をご紹介します。

## ■道後温泉の湯が止まった (愛媛県松山市)

宝永地震により、道後温泉の湯が止まりました。地震後に道後の湯が止まることは過去にもありましたが、宝永地震では今までにないほどの被害が起こりましたので、温泉の不出が人心の動揺を招きつつありました。このため、時の藩主松平定直は事態が容易なことではないとして、湯神社に朱の鳥居を急造し、冠山に植樹して、山容を整え、楽を奏して三日三晩断食祈祷神事を行いました。この結果、年明けになって温泉が再び湧出したということですが、再び湧出した期日については「翌年4月朔日より湯出る」(垂憲録拾遺)、「翌年閏正月20日霊湯再出」(本藩譜)、「翌年正月25日より湯出て同年4月より入浴す」(温泉伝記)など史料によりまちまちです。<牧野竜夫「湯祈祷記一道後温泉震災の記録一」(伊豫史談第188号、1968年)、神原健編「愛媛県気象史料」1952年など>







# Vol.79(2019.1.20) 温泉と神輿②

## ■須崎八幡宮の神輿(みこし)が流された(高知県須崎市)

宝永地震後の津波により、須崎八幡宮は社の大部分が水中に没し、倒壊しました。このため、神輿が潮の流れに乗って太平洋を漂い、流れ流れて5日目に伊豆国下田沖まで達しました。地元の人に拾い上げられた神輿は丁重に祭られていました。このことを安田浦の廻船業の長左衛門が聞き、神輿を須崎にお返し願いたいと申し入れました。交渉により村人や神官の了承を得て、長左衛門は神輿を船に積み込み、宝永5年6月に伊豆を出航し、鳥羽港(三重県)で志和浦の廻船業の弥一兵衛の船に積み替えられて、同年9月に神輿が須崎八幡宮に奉納されました。須崎八幡宮には、流出した神輿が伊豆で拾われ、返してもらったことを記す木札が残されています。<中田稔「宝永津波と八幡宮ミコシ漂流の実記」(須崎史談第14号、1974年)、大家順助編「須崎消防の歩み第2巻」1985年など>





## Vol.80 (2019.2.20) 地すべり①

## 地すべり

地すべりは、斜面の一部が地下水などに起因してゆっくりと斜面下方に移動する自然現象です。一旦動き出すと完全に停止させることは難しく、地すべり対策には長期間を要することになります。徳島県三好市と高知県仁淀川町の例をご紹介します。

#### ■善徳地すべり(徳島県三好市)

善徳地区は吉野川の支川祖谷川中流域に位置し、祖谷川 を挟んで右岸部の善徳箇所と左岸部の今久保箇所に分か れています。地すべり防止区域の面積は220.9haと、日本 でも最大級です。地すべりの活動は安政地震(1854年) に端を発したと言われ、それ以降も活発な動きを示してき ました。このため、善徳地区では昭和27年度から徳島県 により地すべり対策工事が行われ、昭和34年に地すべり 防止区域に指定され、昭和57年度より建設省の直轄地す べり対策事業が着手されました。その後も昭和59年、62 年、平成4年、11年などの台風や梅雨前線により地すべ り被害が発生したため、国により抑制工や抑止工の対策が 行われてきました。昭和62年の災害関連事業の完成を記 念して善徳不動之碑が建立されています。<建設省四国地 方建設局吉野川砂防工事事務所編「昭和59年6月善徳地 すべり災害」1986年、四国の建設のあゆみ編纂委員会編 「四国の建設のあゆみ」1990年など>







# Vol.80 (2019.2.20) 地すべり②

## ■長者地すべり(高知県仁淀川町)

長者地すべり地区は仁淀川の支川長者川右岸にあります。古くは延暦 11 年 (792) に地すべりが発生した記録がありますが、近代以降では明治 19 年 (1886) の地すべりが始まりです。同年 9 月に台風が襲来し、長者川の洪水により堤防が崩れ、それとともに旧寺野地区で地すべりが起こり、40 軒余、約 200 人の住民は住み慣れた土地を棄てて南ノ平に移転しました。高知県は昭和 26 年に長者地区の調査を開始、昭和 33 年に地すべり防止区域に指定し、地すべり対策事業に着手しました。その後も昭和 38 年、51 年などの台風や豪雨により地すべり活動が活発化したため、高知県により地下水排除を主目的とした地すべり対策事業が行われてきました。〈仁淀村史編纂委員会編「仁淀村史 追補」2005 年、高知県土木史編纂委員会編「高知縣土木史」1998 年、高知県公共事業再評価委員会資料など〉







## Vol.81 (2019.3.20) 河川改修に力を尽くす①

## 河川改修に力を尽くす

水害後、人々が途方に暮れる中で、河川改修に取り組んだ人がいます。地元にとって恩人です。香川県さぬき市の竹内熊太郎と愛媛県四国中央市の合田福太郎をご紹介します。

## ■鴨部川と竹内熊太郎(香川県さぬき市)

大正元年(1912)9月21日午後4時頃から23日午前5時頃まで、連続してどしや降りの豪雨となり、鴨部(かべ)川にかかる広瀬橋、乙井橋、地蔵川橋、鴨庄橋などの橋が流され、川田、中空、西山、鳥田、尻切、川西、そうめんや土堤、小山土堤などが決壊しました。濁流が渦巻く中、鴨部、鴨庄では民家が流され、避難できなかった人々は屋根にしがみついて救いを求めたと伝えられています。水位は、鴨部小学校で床上約1.5m、鴨庄小学校では1.8mに及んだとのことです。水害の後、かねてより鴨部川の改修に積極的だった鴨庄の素封家、竹内熊太郎は私財を投じて鴨部川の浚渫を行い、土手を築きました。死期迫る中、竹内は鴨部川改修費にと金4万円を寄付することを遺して、大正10年に亡くなりました。鴨庄橋東詰に頌徳碑が建立されています。<志度町史編さん委員会編「新編志度町史下巻」1986年及び岡村信男著「志度風土記」1984年など





## Vol.81 (2019.3.20) 河川改修に力を尽くす②

#### ■関川と合田福太郎(愛媛県四国中央市)

明治32年(1899)8月28日、暴風雨が襲い、東予地方は洪水に見舞われました。死者は別子山で512人、国領川筋で100人、加茂川筋で51人に達しました。土居町(現四国中央市)では関川、西谷川、浦山川などの堤防が切れ、土居の北部、蕪崎の大部分、藤原の北部などが海のようになり、死者42人、田畑・家屋の流失などの被害が出ました。県は、復旧が困難なので、北海道への移住を奨励したほどでした。人々が路頭に迷う中で、合田福太郎は県会議員として関川改修工事を県に働きかけました。各地も水害を受けていたため改修費の確保は困難な状況でしたが、合田の知謀胆力により関川の改修費が手当てされ、築堤工事は着工から5年で完了しました。八坂神社に関川改修復興記念碑が建立されています。<土居町教育委員会編「土居町誌」1984年及び四国中央市教育委員会編「四国中央市のくらし第二版」2006年など>





## 四国災害アーカイブスの概要

#### ■利用の方法

四国災害アーカイブスは、インターネットを通じて利用 していただきます。

四国災害アーカイブス http://www.shikoku-saigai.com

### ■収録されている災害データ件数

四国災害アーカイブスに収録している災害データ件数は、 29,195件です(平成31年4月現在)。

### ■収録されている災害情報の内容

災害の	1) 地震・津波 6) 雪害
種類	2) 土砂災害 7) 火山災害
	3) 渇水 8) 大規模な火災
	4) 風水害 9) その他
	5) 高潮
災害情報	災害の状況、被害の様子、地域の人々の対応、被害
の概要	軽減の取り組み、等
情報収集	四国で被害が出た災害で、時代が特定できるもの
の範囲	
情報収集	上記の情報を記載している印刷物または電子デー
対象物	タ、および現地調査情報
	・市町村史、郷土史・事業誌
	・災害記録、災害体験集・写真集
	・学術論文、雑誌論文・その他文献等
関連情報	・災害現場、石碑、痕跡等の位置情報及び写真
	・原資料PDF(著作権者から許諾が得られた場合)

## ■四国災害アーカイブスでお伝えしたいこと

四国災害アーカイブスで、皆さまに以下の3つのことを お伝えできればと考えています。

### ①身近な所に災害の歴史があります

平成23年に東日本大震災が発生し、地震・津波への関心が高まっていますが、四国では過去に地震・津波だけではなく、風水害、土砂災害、高潮、渇水などさまざまな災害がたびたび起こってきました。皆さんの身近な所にも災害の歴史があります。

### ②人々が災害に立ち向かってきた歴史があります

災害に対して、人々はただ手をこまねいていただけでは ありません。できるだけ災害が起こらないように、またで きるだけ被害が大きくならないように、その時々に応じた 取り組みが行われてきました。先人の努力や工夫の積み重 ねの上に、今日の四国があります。

## ③災害にまつわる石碑や痕跡などが各地にあります

各地に災害にまつわる石碑や痕跡などがあります。石碑には子孫に災害の教訓を伝えたいという先人の強い思いが込められています。皆さんが災害にまつわる石碑や痕跡を訪ね、改めて災害や地域のことを考えるきっかけにしていただけるよう、できるだけ現場の地図や写真を提供しています。

### メールマガジン配信中

四国災害アーカイブスのメールマガジン を毎月発信しています。メールマガジン の受信を希望される方は下記にメールを お送りください。

E-mail: info@shikoku-saigai.com

## **アーカイブスあらかると** Vol. 70~81 (2018 年 4 月~2019 年 3 月)

四国災害アーカイブス事務局 (一般社団法人 四国クリエイト協会) 〒760-0066 香川県高松市福岡町 3-11-22 電話 087-822-1676 FAX 087-823-8569 http://www.shikoku-saigai.com